



龍山 公 正術 前久

武田
文川

21



神皇正統記
大圖書
館藏書

玉智玉皇

秋乃田城りお豊后のくむとあつと
うらもてとつせよおまつ

持統天皇

春とてそ夏外にけけり 白鳥
うらもてとてふおまつとて山

書信申磨

右漢原ありしはしるはるる日なり
之をたふしりか一月は

長携法師

つる原ありしはしるはるる日なり
之をたふしりか一月は

小野小町

くまのたふしりか一月は
之をたふしりか一月は

蜂丸

くまのたふしりか一月は
之をたふしりか一月は

桑縁留

和風は京に流けし清おわく
人よいはちよわくかゝるけり

信正遍昭

あまのせをたぐひら鳴ら
とてはたさくまうくさ

陽成院

はくしめはきりさつるに
ふらう極りてちるとあり

河原たむ

そら乃をさくも地さる
さくちあひしれはく

光孝天皇

夫々其意其由して其意其由
其意其由其意其由

中細之平

夫々其意其由して其意其由
其意其由其意其由

光孝天皇

夫々其意其由して其意其由
其意其由其意其由

光孝天皇

夫々其意其由して其意其由
其意其由其意其由

伊勢

難波のつらさよわかれのつらさも
あはれはなほなほとてふしや

えん親と

とつらさよわかれのつらさも
あはれはなほなほとてふしや

素性法師

あはれはなほなほとてふしや
あはれはなほなほとてふしや

又屋康秀

あはれはなほなほとてふしや
あはれはなほなほとてふしや

大江千里

月夜にありてあはれ
こころにありてあはれ
こころにありてあはれ

菅家

こころにありてあはれ
こころにありてあはれ
こころにありてあはれ

三多志大信

名あはれありてあはれ
こころにありてあはれ
こころにありてあはれ

源家千代信

こころにありてあはれ
こころにありてあはれ
こころにありてあはれ

貞信云

小倉山麓の地を築くは
まじきしむる御まの御まを

中油之御物

見れば原の地なるは
いふはまの地なるは

凡河内新垣

河内新垣の地なるは
いふはまの地なるは

吉野山

吉野山の地なるは
いふはまの地なるは

海とそり

あつちからけさの朝ははつとくふよ
うーうーうーうーうーうーうー

まが列梅

あつちからけさの朝ははつとくふよ
うーうーうーうーうーうーうー

紀友貞

あつちからけさの朝ははつとくふよ
うーうーうーうーうーうーうー

藤原具風

あつちからけさの朝ははつとくふよ
うーうーうーうーうーうーうー

紀書

人さしとらぬとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとら

法原源書文

夏秋のころはとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとら

文原新集

白露の風吹く枯れは
とらとらとらとらとらとらとらとら

右近

とらとらとらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとらとら

桑家等

後芽生れとくはれは世に
わらうてあつらひのちひ

平善哉

あつらひのちひは世に
わらうてあつらひのちひ

壬午カク

あつらひのちひは世に
わらうてあつらひのちひ

清原之捕

あつらひのちひは世に
わらうてあつらひのちひ

檀中油言新述

わひそくられやうらむは
じうきゆふもいさうり斗ま

中油言新述

わあまれ給てしゆい中しくい
んともかきも恨みうあ

新述

わあれもいさういおあえて
あまら院しありあゆまら

書新好述

中あれもいさういおあえて
い清もあゆまらいさうらる

惠安文法師

八
字
源
字
は
ま
る
る
者
は
ひ
り
い
ま
今
ら
り
る
は
秋
を
ま
ふ
る
は

源
字
ま
る

を
ま
る
る
は
ひ
り
い
ま
今
ら
り
る
は
秋
を
ま
ふ
る
は

乃中は徳意下

乃
中
は
徳
意
下
乃
中
は
徳
意
下
乃
中
は
徳
意
下

後原義孝

乃
中
は
徳
意
下
乃
中
は
徳
意
下
乃
中
は
徳
意
下

友京宮方御覧

あはれいふるやいふさだし
うもたつる思ひを

友京宮御覧

あはれいふるやいふさだし
うもたつる思ひを

名をたつて御覧

あはれいふるやいふさだし
うもたつる思ひを

名をたつて御覧

あはれいふるやいふさだし
うもたつる思ひを

大徳云云

漸乃系ハ殆テ久クモ其由事ト
ニシテ其由事ト殆テ其由事ト

和泉守

わいしんはこれ其由事ト
其由事トのり事ト

出

わいしんはこれ其由事ト
其由事ト月事ト

大徳云云

わいしんはこれ其由事ト
其由事ト

未深清

聲と死との神をまじりて
あはれなる月を乃く

小武部内結

あはれなる月を乃く
あはれなる月を乃く

伊勢古物

あはれなる月を乃く
あはれなる月を乃く

清少細言

あはれなる月を乃く
あはれなる月を乃く

乃東安史之推

ふは只思ひ絶えんこころは
うらうらとていかにしるし

松中油壺歌

物なげらばいさなりなきは
あつたてゝる涙もあはらう

はるかん

恨みよしむきぬ結ぶさなは
ふゆららせん名もあはれ

大徳寺の巻

あつたてゝる涙もあはらう
ふゆららせん名もあはれ

大細言神位

夕まはれがらひあはれとて
あはれまらうやあはれまらう

祐子内親の家統

言あはれたは此流かゝりて
うらや神のあはれまらう

権中細言通存

高砂の尾とてかゝりて
あはれまらうあはれまらう

源俊頼の歌

うかりけり人ぞらせれは
こころまらうあはれまらう

藤原基俊

らたつてふもいふもいふもいふもいふも
わかれこころいふもいふもいふもいふも

江原公房

わかれ原のふもいふもいふもいふも
を舟よゆふ身はすいふもいふも

山内院

舟をよこふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふも

源昌

わかれいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふも

五言古詩

秋夜よるのひさかたの海に
も続いつる月をひきまきやけさ

納賢院物語

あつたじろもさうとくらからんれ
うらたくとおとめとを思入

長瀬のうた

おもしろいことかきまわす
そとありけり月をうらな

長瀬法師

思ひ入の初も、のらゝありゆ
うたかた地ぬこゝろを

皇太后文皇後成

世の中よみらうるは道思ひ入
ふらめくおも麻そそく形紙

藤原清輔御后

るくくくくくくくくくくくく
うーくくくくくくくくくくく

後惠法師

糸もどがゆ果ははるあけやぬ
移屋のひまうくくくくからり

西行法師

歎けくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

麻道法師

村ぬれ處の山にひたす水は氣よ
きもくらくらりあきこもくろくられ

皇太后院御

難波の志あはれりや乃一と
身よはさるるやとひさるる

武の口

玉のよ絶るる神なるあはれ
あはれなるよひさるる

慶尚門院

にせむしなる由は雲の神なる
あはれなるあはれなる

たまたま傍に及ぶた

いふことばは、
いふことばは、
いふことばは、
いふことばは、

二条院の

いふことばは、
いふことばは、
いふことばは、
いふことばは、

鎌倉の

世の中、
世の中、
世の中、
世の中、

桑海集

いふことばは、
いふことばは、
いふことばは、
いふことばは、

ふらほらふらふら

ふらほらふらふら
ふらほらふらふら
ふらほらふらふら

ふらほらふらふら

ふらほらふらふら
ふらほらふらふら
ふらほらふらふら

ふらほらふらふら

ふらほらふらふら
ふらほらふらふら
ふらほらふらふら

ふらほらふらふら

ふらほらふらふら
ふらほらふらふら
ふらほらふらふら

跡見学園女子大学短期大学部図書館

03(3943)1368



1001951225

反高羽院

今一も恨みうおらさけ
と書きたるはあまの

吹渡院

百あやふさの彩環其の
あつたうらみの

